

各教科の結果から

国語

平均正答数は、全国平均よりやや低く、県平均とほぼ同等の結果でした。

「話すこと・聞くこと」では、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめられるかどうかを見る問題の正答率が高い傾向がみられました。

「書くこと」の力をみる問題では、目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力に課題がみられました。

「読むこと」の力をみる問題では、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる力に課題がみられました。

「情報の扱い方に関する事項」では、正答率が県平均を上回る一方で、言葉の特徴や使い方の力をみる問題は、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う力に課題がみられました。

問題形式では、記述式の問題の正答率が低く課題がみられました。

算数

平均正答数は全国平均・県平均より、やや低い結果でした。

「データの活用」の問題の正答率が最も高く、次いで「数と計算」「変化と関係」の問題と続きました。県と同じ傾向で「図形」の問題が最も低い正答率となりました。

「数と計算」では、小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができる問題の正答率が高い結果となりました。

「図形」では、基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述する問題に課題がみられました。

「変化と関係」では、「10%増量」の意味を解釈し、増量後の量が増量前の何倍になっているのかを表す問題に課題がみられました。

理科

平均正答数は全国平均・県平均より、やや低い結果でした。

「地球」を柱とする領域の問題の正答率が最も高く、次いで「粒子」を柱とする領域の問題と続きました。全国や県と同様の傾向で「エネルギー」を柱とする領域の問題が最も低い正答率となりました。

「地球」では、赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、結果や問題に対するまとめを基に、他の条件での結果を予想して、表現する問題の正答率が高い傾向でした。

「粒子」では、身の回りの金属の性質についての知識が身に付いているかをみる問題の正答率が低く、課題がみられました。

「エネルギー」では、乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識をみる問題では、全国・県の平均を上回り、比較的高い正答率となりました。

令和7年度 全国学力・学習状況調査

小牧市の分析まとめと対策について【小学校】

令和7年10月

小牧市教育委員会

教育長 中川 宣芳

本年度の分析にあたって

4月17日に行われた全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。小牧市の結果について、全ての調査教科において正答数が全国平均を上回る学校が複数ありましたが、全体としては、教科によるばらつきはあるものの、全国平均よりやや低い結果となりました。

この調査の目的は、子どもたちの学力の傾向を捉えて、指導の充実・改善を図ることです。子どもたちの学力の傾向を正しく分析し、今後の授業改善に生かしていくことが大切だと考えます。

小牧市においても、子どもたちの学びの現状をしっかりと把握し、課題が残った部分を補いつつ、得意な部分をさらに伸ばしていけるような教育活動の実現につながるように、この調査結果を生かしていきたいと考えています。

今年度は国語と算数に加え、理科の調査も行われました。

今後取り組む指導改善のポイント

国語

- 「書くこと」について、目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫することができるようにするなど、さまざまな場面で書く機会を設けながら、自らの考えを書く力の向上をめざして、指導していきます。
- 「読むこと」について、叙述に基づいて、文章がどのような構造になっているかや、どのような内容が書かれているかを把握しながら読むことができるように指導していきます。

理科

- 「エネルギー」の領域では、実験の結果から得られた性質や働き、規則性などを活用したものづくりを充実させるとともに、科学の基本的な概念等を柱にして、内容の系統性が図られていくように指導していきます。
- 「生命」「地球」の領域では、自然を愛する心情を養うとともに、対象の成長や働き、環境との関わりなどについての考えを構築していくように指導していきます。
- 問題解決や科学的な探究のプロセスを通して、学習を通して身に付けた知識を活用することができるような指導の充実を図っていきます。

算数

- 「図形」について、図形の性質の考察においては、観察や構成などの活動を通して、図形の意味を正しく理解したり、図形の性質を見付けたり確かめたりすることができるように指導していきます。
- 日常生活を題材とした問題をより多く取り上げ、必要な情報を適切に読み取り、問題解決の見通しや方法について伝え合う中で、論理的に考察する力を身に付ける指導をしていきます。

全般

- 「学び合う学び」の授業に継続して取り組み、安心して子どもたちが学びに向かうことができる人間関係を構築するとともに、学習指導要領の示す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、さらなる授業改善を図ります。
- 子どもたちが学習した内容や生活経験、興味・関心のあることの中から自分で課題を見付け、必要な情報を集めて解決し、その過程を振り返りながら新たな課題に向かっていく探究的な学びを推進していきます。
- 一人一台タブレット端末を効果的に活用し、より多くの考えや情報に触れる中で考えを広げたり深めたりするとともに、個々の学習状況に応じたきめ細かな指導・支援を進めていきます。

質問紙調査から

朝食を毎日食べているか	肯定的 92.3%
毎日同じくらいの時刻に寝ているか	肯定的 81.0%
毎日同じくらいの時刻に起きているか	肯定的 90.0%
全国平均と概ね同じ結果となりました。家庭での全面的な支えがあり、基本的な生活習慣が身に付いていることが分かります。	
自分にはよいところがあると思うか	肯定的 87.1%
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか	肯定的 90.7%
教師が子どもに寄り添い、それぞれのよさを認めて積極的に評価することで、その姿勢が児童にも伝わり、自己肯定感の高まりにつながります。また、学年・学級が一人一人をかけがえのない大切な存在として認め合う集団となることをめざしていきます。	
あなたの家では主に何語で話しているか	日本語以外 4.5%
全国平均を上回る結果でした。本市は、外国にルーツをもつ児童の割合が多い傾向にあります。	

日本語初期教室や国際教室での指導など外国にルーツをもつ児童の学力を保證する教育活動を進めます。

学校に行くのは楽しいと思うか 肯定的 86.7%

友達関係に満足しているか 肯定的 90.8%

全国平均と概ね同じ値でした。子ども同士で支え合う良好な関係が築かれていることが、楽しく安心して学校に通うことにつながっていることが分かります。

国語・算数・理科の勉強が好きか 肯定的 58.5%(国)・56.0%(算)・80.6%(理)

国語・算数・理科の授業の内容はよく分かるか 肯定的 79.5%(国)・73.6%(算)・88.5%(理)

肯定的な回答の値が高い一方で「よく分かる」と比べると低い値となっています。分かりやすいと同時に、子どもたちの興味・関心を高め、それぞれの教科の楽しさ・おもしろさといった魅力が伝わるような授業づくりに努めます。

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできているか 肯定的 82.0%

5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいたか 肯定的 80.2%

これからの変化の激しい時代を生き抜くため、自ら学び方を工夫・調整したり、学んだことを実生活に生かしたりする力が求められます。児童自身が自ら見いだした課題を探究していく学習活動を充実させていきます。

5年生までの授業で、ICT機器をどの程度使用したか。 ほぼ毎日 78.4%

学習の中でのICT活用についてどれくらい当てはまるか

- ・分からないことがあった時すぐに調べる 肯定的 91.0%
- ・友達と考えを共有したり比べたりする 肯定的 87.9%

ほぼ毎日の使用が、全国や県平均と比べて高い値であり、授業において日常的に使用され、考えの共有や学びの蓄積に不可欠な道具になっています。児童自身もICT機器のよさを実感し、自分の目的に合わせて効果的に活用する能力や態度が向上していることがうかがえます。

学習態度・生活態度の状況